

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

195号
2026年8月19日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 D C 会館内
TEL 043-22227207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

東京高裁宛て
行政訴訟署名

1万892筆

(26年8月19日)

11・1浅草公会堂で労働者集会

労働者の国境を超えた団結で戦争を止めよう！

時代の分岐点 闘う労働組合の力を取り戻そう

11月1日に開催される11月労働者集会に全国からの参加を呼びかけます。今年の集会は浅草公会堂での開催となります。いま、戦争・改憲、労働法制の解体が同時に進められる中で、労働者が団結して声を上げ、闘う労働組合の力を取り戻すことがますます重要になっています。

「台湾有事」を掲げた戦争への動き、沖縄・南西諸島の軍事要塞化、経済の軍事化、改憲、排外主義の強まりが社会を覆っています。トランプ政権による世界的な戦争拡大と一体とな

て、高市政権も「防衛体制の強化」を掲げ、戦争への道を進んでいます。いま必要なのは「平和」を願うだけではなく、労働組合がデモやストライキを通じて戦争を止める闘いの先頭に立つことです。

青年や女性たちの間にも戦争への危機感と社会への怒りが広がり、行動に立ち上がる動きが生まれています。その怒りを全国につなぎ、社会を変える力にしていこうと労働組合の役割です。しかし連合は「成長戦略」の名のもとに政府・企業と一体

11月労働者集会は、国鉄分割・民営化と総評解散・連合結成によって労働運動が解体されていく中で、現場の力を結集し、労働運動を再生しようと思

まりました。その原点には、動労千葉が解雇者を押しながらもストライキに立ち上がり、団結を守り抜いた闘いがあります。国鉄1047名解雇撤回闘争もいまま続いている労働運動解体との攻防は終わっていません。

さらに27年の労働法制制定80年を前に、労働基準関係法制の大改悪が狙われています。労働者の団結権・団体交渉権・争議権を握り崩し、「労組なき社会」へと労働組合を弱体化させる攻撃です。戦争と労働運動の解体が一体となって進むいま、職場から団結をつくり、闘う力を取り戻すことが必要です。

今年の11月労働者集会は、韓国・民主労総をはじめ世界の労働者とともに「国境をこえた労働者の団結で戦争を止めよう」と声を上げる国際共同行動として開催されます。

いまこそ闘う労働組合を甦らせる力をつくり出そう。戦争を止め、労働者の権利を守り、社会を変える力は、労働者の団結した闘いの中にあります。11月1日、浅草公会堂への結集を呼びかけます。

「台湾有事」を掲げた戦争への動き、沖縄・南西諸島の軍事要塞化、経済の軍事化、改憲、排外主義の強まりが社会を覆っています。トランプ政権による世界的な戦争拡大と一体とな

て、高市政権も「防衛体制の強化」を掲げ、戦争への道を進んでいます。いま必要なのは「平和」を願うだけではなく、労働組合がデモやストライキを通じて戦争を止める闘いの先頭に立つことです。

青年や女性たちの間にも戦争への危機感と社会への怒りが広がり、行動に立ち上がる動きが生まれています。その怒りを全国につなぎ、社会を変える力にしていこうと労働組合の役割です。しかし連合は「成長戦略」の名のもとに政府・企業と一体

11月労働者集会は、国鉄分割・民営化と総評解散・連合結成によって労働運動が解体されていく中で、現場の力を結集し、労働運動を再生しようと思

まりました。その原点には、動労千葉が解雇者を押しながらもストライキに立ち上がり、団結を守り抜いた闘いがあります。国鉄1047名解雇撤回闘争もいまま続いている労働運動解体との攻防は終わっていません。

さらに27年の労働法制制定80年を前に、労働基準関係法制の大改悪が狙われています。労働者の団結権・団体交渉権・争議権を握り崩し、「労組なき社会」へと労働組合を弱体化させる攻撃です。戦争と労働運動の解体が一体となって進むいま、職場から団結をつくり、闘う力を取り戻すことが必要です。

今年の11月労働者集会は、韓国・民主労総をはじめ世界の労働者とともに「国境をこえた労働者の団結で戦争を止めよう」と声を上げる国際共同行動として開催されます。

いまこそ闘う労働組合を甦らせる力をつくり出そう。戦争を止め、労働者の権利を守り、社会を変える力は、労働者の団結した闘いの中にあります。11月1日、浅草公会堂への結集を呼びかけます。

JR貨物の戦争協力許すな

「軍事物資輸送を行うな」申し入れ

動労総連合は7月28日、JR貨物の2026年度事業計画における戦争協力につながる軍事物資輸送について、同事業計画に新たに盛り込まれた「有事」における貨物輸送について申し入れを行った。

JR貨物の26年度事業計画には、「安全保障の観点からも、有事において物資を迅速かつ大量に機動的に展開できる貨物輸送への期待が高まっている」とした上で、「既存のネットワークやアセットを有効活用しつつ、想定される必要な輸送体系の構築に向け、防衛省をはじめとする関係機関との調整を行っ

ていく」と明記されている。これまでも自衛隊の戦車や物資の一部が鉄道で輸送されたことはある。しかし今回の事業計画は、単発的・部分的な輸送にとどまらず、「有事」を想定した必要な輸送体系を構築し、防衛省などとの調整を進めることをJR貨物自身の事業計画として明記した。

申し入れでは、この記載を26年度事業計画に新たに加えた理由、「安全保障の観点」とは何を意味するのか、「有事」とは具体的にどここの有事を想定しているのかを明らかにするよう求めた。さらに「既存のネッ

トワークやアセットを有効活用」とは具体的に何を意味するのか、「想定される必要な輸送体系」とは、いつ、どのような方法で、何を運ぶことを考えているのかについても回答を求めた。そして、「防衛省をはじめとする関係機関」とはどこを指し、そこでいう「調整」とは具体的に何を行おうとしているのかを聞いた。最後に、申し入れは「戦争協力につながる軍事物資輸送をおこなわないこと」を要求した。

戦争になれば、大量の武器・弾薬や軍事物資が必要となる。鉄道はそれらを大量かつ継続的に輸送することのできる交通手段であり、その輸送を担うのはJR貨物の労働者になる。つまり、JR貨物が「有事」に対応する

輸送体系を構築するということは、鉄道で働く労働者を戦争遂行のための輸送に組み込んでいくことにはかならない。

事業計画がいう「有事」とは何か。現在、九州から沖縄・南西諸島にかけて自衛隊の増強が進められている。九州・沖縄から南西諸島にかけて軍事的な態勢が強化される中で「有事」を想定した軍事物資輸送の態勢をJR貨物が構築すれば、鉄道が戦争のための兵站を担うのだ。

鉄道で働く労働者が、戦争のための輸送を拒否するのかわどうかという、労働組合としての根本的な課題が突きつけられている。戦争協力を拒否し、鉄道を戦争の道具にさせない闘いを職場からつくり出していかねばならない。

外房線と地域を守る会が総会

久留里線の廃線撤回へ地域で連帯

7月26日、勝浦市・キヌステ大会議室で外房線と地域を守る会の第7回総会が開催された。会員や外房線沿線の組合員やOB、内房線と地域を守る会、久留里線と地域を守る会など30人が参加した。

冒頭、早川隆雄会長があいさつ。「結成以来、外房線の利便性確保とワンマン運転導入反対に取り組んできた」とし、ワン

マン運転導入直後に大東駅で乗客が転倒し大腿骨を骨折する重大事故が発生したことを報告。乗務員1人によるワンマン運転とホームと車両の段差を問題として、JR千葉支社への改善要請を続けてきたと述べた。

また、久留里線の久留里〜上総亀山間の廃線・バス転換について、「外房線・内房線の廃止、地方消滅にも関わる重大な問題」と指摘。JRが外房線・勝浦〜安房鴨川間の利用者数を2000人以下と公表していることから、将来的な廃線も危惧されるとし、特急削減の撤回、通勤快速の復活、千葉直通列車の増発、長者町・太東両駅の待合室設置など、利便性向上を求める取り組みを強化していく決意を表明した。

内房線と地域を守る会の梅澤和子代表は、久留里線廃線について「地元住民や利用者の声を



無視した廃線ありきの議論だ」と批判。バス転換についても、道路事情や乗り換えの負担、深刻なバス運転手不足などから持続可能性に疑問を呈し、「鉄道の廃線は人口減少を加速させ、地域を衰退させる」と訴えた。

久留里線と地域を守る会の三浦久吉代表は、JRが3月9日に久留里〜上総亀山間9.6キロの廃線を国土交通省に申請したことを報告。君津市長がこれに賛成していることを批判し、JRが18年間で20億円を拠出し、君津市がバス運行を担う枠組みまで進められていることを指摘した。その上で、「久留里線の存続、廃線申請の撤回に向け、外房線・内房線の会と連帯して闘う」と決意を表明した。

外房線、内房線、久留里線をめぐる問題は、それぞれ別の問題ではない。地域の足を守り、鉄道を維持・発展させるため、沿線住民と労働者が地域を越えて連帯する取り組みが求められている。

あらためて問う
国鉄闘争の意義

動労千葉「ジェット燃料輸送阻止闘争」の教訓・下

輸送拒否から輸送阻止への戦術転換

100日間にわたる激闘の結果、動労千葉の組合員全員がジェット燃料列車のハンドルを握ることを完全に拒否したため、もはや当局は全国から集めた助役機関士にハンドルを握らせて列車を動かすしか方法がないという力関係が形成された。組合員が処分を恐らず団結を守り抜いた意味で、労働組合運として画期的な勝利だった。だが、管理職による代替要員によって遅れながらも列車が動き始めてしまうという現実にも動労千葉は直面した。

「俺たちは運転しない」と職場をボイコットするだけ（輸送拒否）では、助役機関士による運行をただ見ているしかなくなる。徹底的な討論の末、78年4月6日に開催された地本臨時大会において、執行部は前代未聞の新方針を打ち出した。それが「輸送拒否から輸送阻止へ」の戦術転換だった。

「俺たちは運転しない」と職場をボイコットするだけ（輸送拒否）では、助役機関士による運行をただ見ているしかなくなる。徹底的な討論の末、78年4月6日に開催された地本臨時大会において、執行部は前代未聞の新方針を打ち出した。それが「輸送拒否から輸送阻止へ」の戦術転換だった。

「俺たちは運転しない」と職場をボイコットするだけ（輸送拒否）では、助役機関士による運行をただ見ているしかなくなる。徹底的な討論の末、78年4月6日に開催された地本臨時大会において、執行部は前代未聞の新方針を打ち出した。それが「輸送拒否から輸送阻止へ」の戦術転換だった。

戦後労働運動の「常識」を打破した地平

動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争は、当時の日本労働運動において新しい可能性を切り開いた。

動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争は、当時の日本労働運動において新しい可能性を切り開いた。

第一に、職場の力に依拠した「実力闘争」の復権だ。

75年のスト権スト敗北以降、多くの労働組合が「世論の批判を浴びる」「当局・会社にならまされて組織がつぶされる」と闘う姿勢を放棄していった。その中で動労千葉は職場の力に依拠した実力闘争を貫き通した。

従来の輸送拒否戦術だけでは、国鉄当局が全国から管理職のスト破り運転士を投入して運行を継続してしまう。そこで新たな輸送阻止戦術は「俺たちが日常のダイヤを握り、職場を敵に明け渡さない」という方針だった。自分たちが運転席に座り続けることで当局が助役を投入する隙を与えず、いざという時に順法闘争やストライキを展開して「敵の弱点」を握る、という闘いを目指したのだ。

戦後の日本労働運動（民同）は「労働者は、賃上げや一時金といった『目の前にぶら下げられたニンジン』（経済的利益）がないと立ち上がらない」という「常識」に縛られていた。し

論したのだ。

このとき、反対同盟の戸村一

作委員長から送られた言葉が「農民は土地を武器に闘い、動労は鉄路を武器に闘う」だ。農民が自らの土地に踏みとどまって闘うように、鉄道労働者は鉄路に踏みとどまって闘うべきだ――。この精神に支えられ、執行部と現場が真正面から議論を戦わせた結果、全体の確固たる意志としてこの戦術転換が確認されたのだ。

その後、3月26日の「管制塔占拠」によって実際の開港は5月まで延期されるが、動労千葉が百日間闘争で打ち立てた地平は、後の動労本部からの分離・独立闘争へと受け継がれた。

「会社や権力と激しく闘えば闘うほど、脱落者が出たり、当局からの切り崩しで組合は分裂・崩壊する」というもの。動労千葉はこの神話を粉砕した。

こうした激闘を経て1400人の動労千葉地本の団結は、崩壊するどころか格段に強化された。「タテマエと本音」を排し、とことん労働者を信頼し、する必要があった。

労働運動復権への歴史の教訓

現在、労働組合の組織率は過去最低を更新し、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

第二に、労働者としての誇りし、職場で「連帯」という言葉もあまり聞かない。しかし、三里塚闘争60年の節目に、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の足跡を振り返ることは極めて生きた教訓がある。

ことは、結果として社会や消費員の問題を洗いざらい全組合員の討議にかけて決めてゆく路線と指導があったからだ。

多くの組合が、幹部だけで方針を決め、現場にタテマエを押し付け、現場の「本音（例えば「処分は怖い。生活も苦しい」）を無視したために自壊していった。しかし動労千葉は、どんなに厳しい戦術転換であっても、すべてを現場の組合員に開示し、全員で徹底的に討論した。労働者を信じ、本音でぶつかり合ったからこそ、1400人の心が一つになり、真の団結が生まれたのだ。

第三に、「タテマエと本音」を排した徹底的な職場討論の貫徹である。

組合組織が衰退する決定的な原因の一つが、リーダー層と現場組合員の乖離だ。動労千葉が1400人の団結を強化できたのは、結果として社会や消費員の問題を洗いざらい全組合員の討議にかけて決めてゆく路線と指導があったからだ。

戦争阻止する労働組合の決定的な力

後日談として、動労千葉の中間日談として、闘いの手本として映画『鉄道の戦い』（1946年、ルネ・クレマン監督）を学んだと語っている。

近年、国土交通省の検討会で防衛省が戦車輸送などにおける鉄道路線の重要性を猛烈にアピールし、有事の物流網の構築を阻んでいる。再び鉄道の軍事利用が問題になる今だからこの映画で本物の鉄道労働者たちが演じた。鉄道の燃料を抜き、ブレーキ管を傷つけ、ポイントに板をはさみ、手作業でレールを外して実力でナチスの軍事輸送をストップさせた。鉄道労働者が本気で抵抗すれば、いかなる軍隊も列車の運行を継続することはできない。この歴史の教訓は決して過去



この闘争が現代に持つ最大の教訓は、労働組合の力、職場と労働組合の復権こそが、そして動労千葉のような闘いこそが戦争を止める本当の力となる。三里塚闘争60年の節目にあたり、私たちは農地と鉄道を武器に闘った先達の意思を引き継ぎ、自らの職場から反戦と連帯の闘いを作り上げたい。これは国鉄闘争の現在進行形で存在し、闘いの方向を指差する歴史の伝統である。（了）